

# トビウオ通信 (R元 第3号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

## 《令和元年度上半期浮魚中長期漁況予報》

平成 30 年度第 2 回対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁海況予報 (H31 年 3 月 26 日発表) より、山陰沖のまき網漁業が対象とする主要浮魚の令和元年度上半期 (4 ~9 月) の中・長期的な漁模様の予測をします。

### 山陰沖における漁況(来遊)予報〔令和元年度上半期(4~9月)〕

マアジ:前年を下回る

サバ:前年並みか前年を下回る

マイワシ:前年を下回る

ウルメイワシ:前年を下回る

カタクチイワシ:前年を上回る

※ 本文中で「上半期」は 4~9 月、「下半期」は 10~翌年 3 月 (平成 31 年 3 月は速報値)、「平年」は過去 5 カ年の平均値を示します。

#### マアジは前年を下回る

##### 東シナ海~日本海南西海域の漁況

東シナ海~日本海南西海域における大中型まき網によるマアジの漁獲量は、増減を繰り返し、2 万~4 万トンで推移しています (図 1)。

また、鹿児島県から山口県までの沿岸域における平成 30 年 11 月~平成 31 年 1 月の漁獲状況は、前年並みでした。今後は主体となる 1 歳魚の来遊量が前年並みになると予測されています。

##### 山陰沖の漁況と今後

島根県の中型まき網によるマアジの漁獲量は平成 16 年度以降、2 万~4 万トン程度で推移しています (図 2)。平成 30 年度下半期は 7,140 トンの漁獲があり、前年同期 (7,623 ト

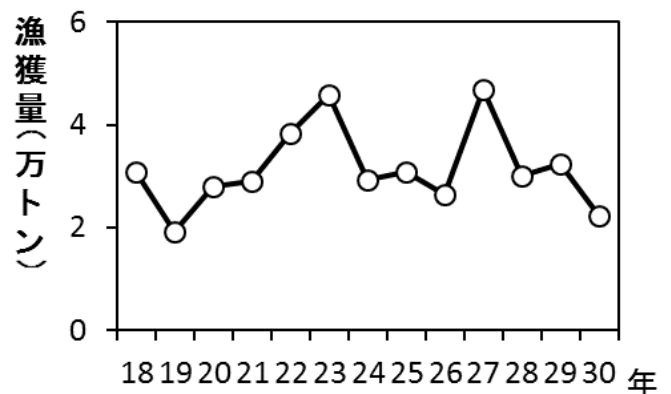


図 1. 東シナ海~日本海南西海域 (大中型まき網) によるマアジ漁獲量の推移

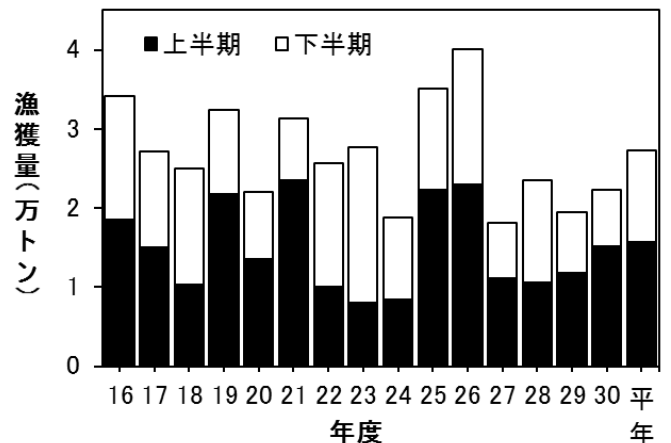


図 2. 島根県中型まき網によるマアジ漁獲量の推移 (平年は H25~29 年の平均値)

ン)の94%、平年同期(11,485トン)の60%でした。

平成30年の漁獲の主体は平成29年生まれ(H30年時点1歳魚)が中心で、上半期の漁獲量は前年を上回り、下半期は前年並みで、漁獲量は平年を下回りました。

今後の漁況は、漁獲の主体となる1歳魚(大きさ15~20cm:H30年生まれ)と2歳魚(大きさ20~25cm:H29年生まれ)の山陰沖への来遊状況と、夏季以降漁獲対象となる0歳魚(大きさ5~15cm:H31年生まれ)の加入状況によって決まります。

マアジ対馬暖流系群の2歳魚の資源

水準は前年を下回ると予想されます。1歳魚の資源水準は、山陰沖での直近の漁獲状況とマアジ新規加入量調査\*の結果(図3)から前年並みか前年を下回ると予想されます。0歳魚の資源水準を予想するのは困難ですが、東シナ海における着底稚魚の分布量と高い相関が見られる4月半ばの好適水温面積は、平成31年は前年並みと見込まれることから0歳魚の資源水準は前年並みと考えられます。全体の来遊量は漁獲の主体となる1歳魚の来遊量が前年を下回ることとを反映して、前年を下回ると予測されます。

※マアジ新規加入量調査：マアジ0歳魚の加入量を早期に把握するための調査

※加入量指数：マアジの新規加入量調査においてその年の0歳魚の加入量を数値化したもの。ただし平成15年を1としている。

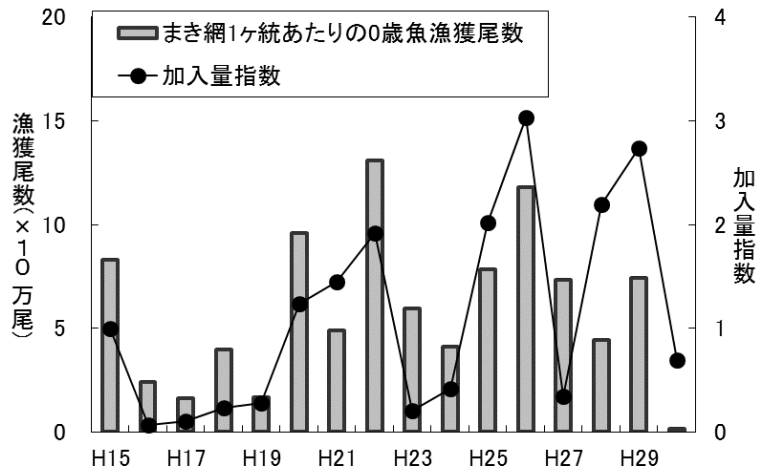


図3. マアジ新規加入量調査による加入量指数\*と6~12月におけるまき網(境港)1ヶ統あたりの0歳魚の漁獲尾数

## マサバは前年を下回る

東シナ海~日本海南西海域における大中型まき網によるマサバの漁獲量は、平成22年から平成26年まで減少傾向にありましたが、近年は横ばいとなっており、平成30年の漁獲量は3万9千トンでした(図4)。

### 山陰沖の漁況と今後

島根県の中型まき網によるサバ類の漁獲量は、盛漁期にあたる下半期の経年変化をみると、5千~2万トンの中で増減を

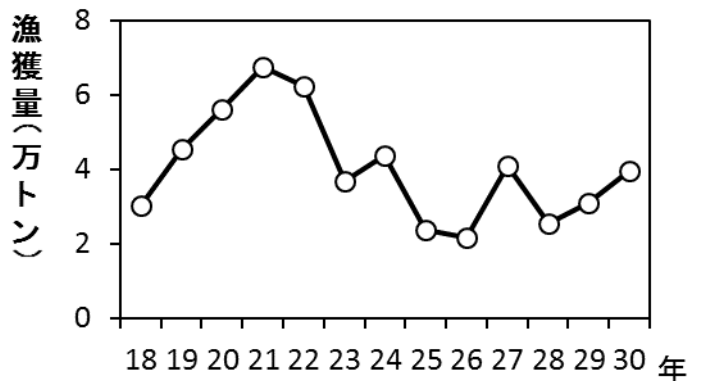


図4. 東シナ海~日本海南西海域(大中型まき網)によるマサバ漁獲量の推移

繰り返して推移しています（図 5）。平成 30 年度下半期の漁獲量は 8,563 トンで、前年同期（14,460 トン）の 59%、平年同期（13,635 トン）の 61%でした。

例年、4～9 月にかけて漁獲は低調に推移しますが、1 歳魚（25～30cm：H30 年生まれ）が漁獲の主体となり、夏以降は 0 歳魚（15～20cm：H31 年生まれ）も漁獲されます。

山陰沖を含むマサバ対馬暖流系群の 1 歳魚の資源水準は、前年を下回るとされています。また、0 歳魚の資源水準は予測が困難ですが、親魚量は微増であるため前年並みと予想されます。従って、全体の来遊量は前年並か前年を下回ると考えられます。

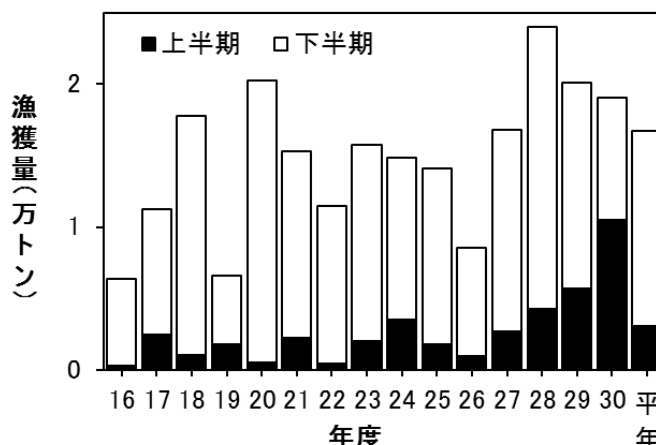


図 5. 島根県中型まき網によるサバ類漁獲量の推移（平年は H25～29 年の平均値）

### マイワシは前年を下回る

島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲量は、平成 23 年から増加し（図 6）、平成 26 年を除いて平成 23 年以降は 2～3 万トンで推移していました。

しかしながら、平成 30 年度下半期の漁獲量は 689 トンで前年同期（14,598 トン）の 5%、平年同期（8,219 トン）の 8%と激減しました。

今後の漁況は、漁獲の主体となる 1～2 歳魚（大きさ 15 ～20 cm：H30 年～H29 年生まれ）と夏以降の 0 歳魚（大きさ 15 cm以下：H31 年生まれ）の来遊量で決まります。2 歳魚の資源量は前年を下回り、1 歳魚は前年と同等か下回る資源水準であると考えられています。また、0 歳魚の予測は困難ですが、直近の漁況では 1 歳以上の来遊が前年と同様に少ないことから前年並みとなる可能性が高いです。そのため今期における山陰沖への来遊量は前年を下回ると考えられます。

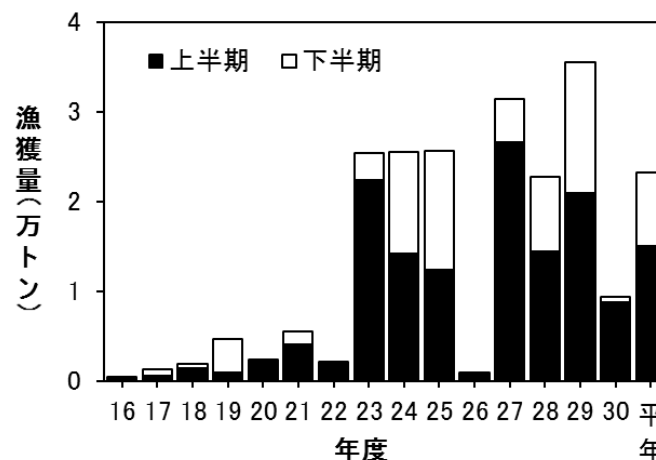


図 6. 島根県中型まき網によるマイワシ漁獲量の推移（平年は H25～29 年の平均値）

### ウルマイワシは前年を下回る

島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲量は、平成 23 年以降増減はありますが、近年は増加傾向にあります(図 7)。

平成 30 年度下半期の漁獲量は 2,436 トンで、前年同期 (923 トン) の 264%、平年同期 (3,564 トン) の 66%でした。

今後は、1~2 歳魚 (大きさ 18 cm 以上 : H30 年~H29 年生まれ) と夏以降の漁獲に加わる 0 歳魚 (大きさ 5~15 cm : H31 年生まれ) が漁獲の主体となります。ウルメイワシ対馬暖流系群の 1 歳魚の資源水準は、前年を下回るとされています。0 歳魚の資源水準を予測するのは困難ですが、漁獲量が減少傾向にあることを考慮すると、前年並みと考えられます。そのため今期における山陰沖への来遊量は前年を下回ると予測されます。

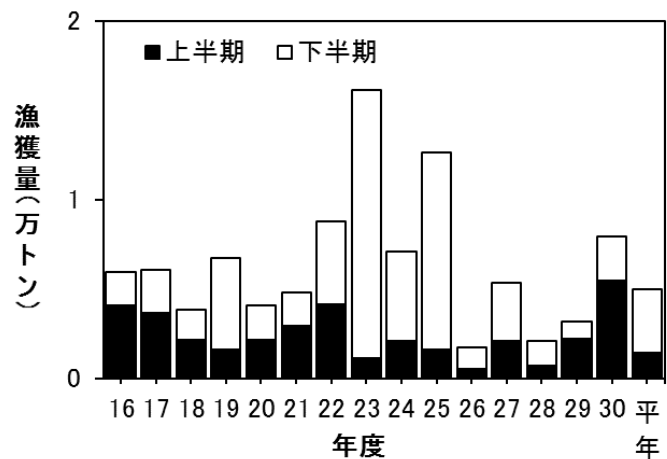


図 7. 島根県中型まき網によるウルメイワシ漁獲量の推移 (平年は H25~29 年の平均値)

### カタクチイワシは前年を上回る

島根県の中型まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、平成 24 年以降減少しています (図 8)。

平成 30 年度下半期の漁獲量は統計上はゼロでした。

今後の漁況は、漁獲の主体となる 0 歳魚 (大きさ 5~10 cm : H31 年生まれ) と 1 歳魚以上 (大きさ 12~14 cm : H30 年以前生まれ) の来遊量で決まります。カタクチイワシ対馬暖流系群の資源量は、近年低い水準で横ばいとなっていますが、1 歳魚は前年を上回ると判断されています。0 歳魚の資源水準を予測するのは困難ですが、東シナ海~日本海南西海域での直近の漁獲が好漁だったことを考慮すると、全体の来遊量は前年を上回ると予測されます。

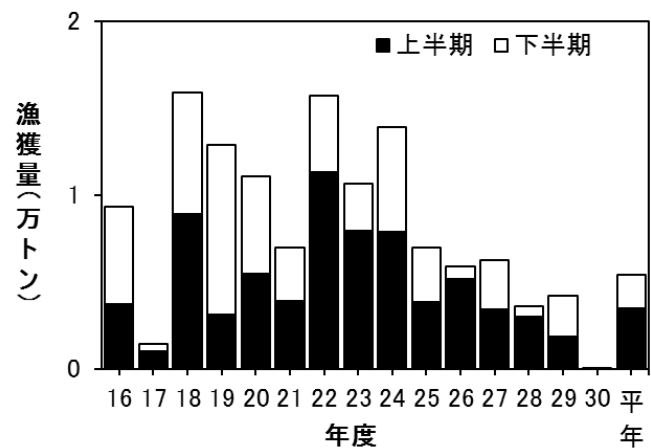


図 8. 島根県中型まき網によるカタクチイワシ漁獲量の推移 (平年は H25~29 年の平均値)